

Japan Private Equity Conference

開催報告

2013年1月29日(火)、大手町サンケイホール(東京都千代田区)にて、『機関投資家のためのプライベート・エクイティ』(きんざい)の出版を記念して、Japan Private Equity Conferenceが開催された。機関投資家を中心に約200名の参加があり、盛会裏に終了した。

基調講演

基調講演では、西村あさひ法律事務所の五十嵐誠弁護士に「プライベート・エクイティ・ファンドへの投資に係る法律上の留意点」のテーマで、プライベート・エクイティ・ファンド(特に投資事業有限責任組合をピークルとする場合)の近年の法的な論点について解説をして頂いた。

具体的には、ファンドに出資する投資家の視点から留意すべき仕組みや法律上の論点が明らかにされた。特に投資家の責任範囲、運用開始後(追加クローリング)での参加、クローバック条項、セカンダリーでの持分売却、キャピタルコールに応じられない場合の措置、キーマン条項発動などの論点について詳細な説明があった。

また、金融商品取引法の影響などの最新動向についての解説もあり、投資家側とファンド側の双方にとって有意義な内容であった。

第一セッション

第一セッションでは、佐村礼二郎氏(アント・キャピタル・

パートナーズ株式会社 マネージングパートナー)と松本守祥氏(日本アジア投資株式会社 前取締役会長)に登壇頂いて、「プライベート・エクイティにおけるセカンダリー市場の役割と機関投資家にとっての意義」のテーマでの討論が行われた。司会者は、イー・アイ・キャピタル株式会社 代表取締役社長の清水達平氏に務めて頂いた。

まず、日本のセカンダリー市場の現状の認識と活性化に向けた課題に関する討論が行われ、マーケット自体の拡大が必要なことや、エージェントの出現が期待されることなどの示唆があった。また、セカンダリー・ファンドへ投資する投資家とセカンダリー・ファンドへポートフォリオを売却する投資家へのメッセージが発せられた。売らざるを得ない売却ではなく、戦略的なポートフォリオ・マネジメントの視点が必要であることを認識させられる内容であった。

参加者からも、「今までセカンダリー・ファンドに関する話を聞く機会がなかったため、今回のセッションは新鮮だった」、「日本においても、潜在的なニーズが存在しており、今後の成長性を感じた」などの声があった。



刊行の背景の説明



基調講演



第一セッション



会場の様子



第二セッション



第三セッション

第二セッション

第二セッションでは、松野修氏（株式会社メザニン エグゼクティブディレクター）、宮崎直氏（みずほキャピタルパートナーズ株式会社 マネージング・ディレクター）、石井誠氏（三井住友トラスト・キャピタル株式会社 常務取締役）に登壇頂いて、「メザニン・ファンドの魅力とリスク・リターンの考え方」のテーマでの討論が行われた。司会者は、エー・アイ・キャピタル株式会社 ディレクター 漆谷淳氏に務めて頂いた。

まず、各ファームのメザニン投資の取り組み状況と、年金基金を中心とする機関投資家の間でメザニン・ファンドが注目されている背景についての説明があった。

また、企業側の資金ニーズとの関連で、メザニン・ファンドとしてはどのような投資機会があるかについての議論がなされ、LBO などのパイアウトに関係する案件と、企業の資金調達ニーズを起因とするコーポレート・メザニンの案件の機会があることが指摘された。

第三セッション

第三セッションでは、仮屋蘭聡一氏（株式会社グロービス・キャピタル・パートナーズ マネージング・パートナー）、吉崎浩一郎氏（株式会社グロス・イニシアティブ 代表取締役）、山田和広氏（カーライル・ジャパン・エルエルシー マネージング ディレクター 日本共同代表）、密田英夫氏（ポラリス・キャピタル・グループ株式会社 パートナー）に登壇頂いて、「パイアウト、グロス・キャピタル、ベンチャー・キャピタルのバリュー・クリエーション」のテーマでの討論が行われた。司会者は、キャピタル・ダイナミクス株式会社 代表取締役社長の小林和成氏に務めて頂いた。

本セッションでは、プライベート・エクイティ・ファンドがどのように投資先企業の価値創造を行っているかについて、歴史の長い欧米のファンドとの比較や過去の具体的なケーススタディを交えて議論・検証が行われた。

また、ベンチャー・キャピタルとグロス・キャピタルに関

して、投資先企業から資金以外で期待されることとして何があるか、またパイアウト・ファンドの場合には、日本のビジネス環境にフィットした手法はあるのか、という点に関する討論が行われた。

そして、最後に、今後の日本のプライベート・エクイティ市場の課題に関する討論が行われ、セッションが終了した。

姉妹本の紹介

第三セッションの後には、『機関投資家のためのプライベート・エクイティ』の姉妹本として刊行される『プライベート・エクイティの投資実務～Jカーブを超えて～』の内容紹介が行われた。本書は、欧州投資基金（European Investment Fund）でプライベート・エクイティ投資の投資戦略、ポートフォリオ管理およびそのリスク・マネジメントに深くかかわったトーマス・メイヤー氏とピエールーイビス・マゾネット氏による共著、*Beyond the J Curve: Managing a Portfolio of Venture Capital and Private Equity Funds*の邦訳である。

翻訳者の一人である小林和成氏から、内容の予告が行われるとともに、原著者であるトーマス・メイヤー氏が特別ゲストとして登場し、日本のプライベート・エクイティ業界関係者に向けたメッセージが発せられた。

第四セッション

第四セッションでは、山村一郎氏（大同生命保険株式会社 市

場投資部 プライベート・エクイティ投資課長）、富田康之氏（株式会社日本政策投資銀行 資金運用グループ ファンド投資班 調査役）、近藤英男氏（DIC 企業年金基金 運用執行理事）に登壇頂いて、「プライベート・エクイティを中心とした非流動資産投資の魅力と将来展望～機関投資家の視点から～」のテーマでの討論が行われた。司会者は、元 帝京大学経済学部教授の茂木敬司氏に務めて頂いた。

最初に、各社が非流動資産やプライベート・エクイティに取り組むようになった背景と、どのように体制を構築してきたかについての紹介があった。

次に、機関投資家がプライベート・エクイティ・ファンドへの投資を行う際の難しさについての討論が行われ、担当者自身がノウハウを取得することに対する難しさに加え、組織全体の理解を得るための難しさがあることなどが述べられた。

そして、最後に、これからプライベート・エクイティ・ファンドへの投資を検討する機関投資家に向けてのメッセージとして、この仕事の面白さやこの分野での投資において必ず検討すべき点などが伝えられた。

（文責：杉浦慶一）

（本カンファレンスに際して、ご協賛賜りました各社の皆様、各セッションに登壇頂きました皆様、参加者の皆様、スタッフとしてご支援頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。）



姉妹本の紹介



第四セッション